

教員の養成に係る教育の質の向上に係る取り組みに関すること

(1)教職課程委員会における検討

本学の教職課程の歴史は、人間環境学部人間環境学科において2000年4月に設置された。これまでは学務全般を協議する教学委員会の中で教職課程に関する事項を審議していたが、2015年4月看護学部の設置に伴い、2016年4月より全学を対象とした教職課程委員会を設置した。さらに各学部内に教職支援強化のための教職課程分科会を設置し、教職をめざす学生のために大学全体あるいは各学部ごとに実施している学生支援の現状と課題について分析検討を行っている。

(2)教育委員会及び地域との連携

看護学部の養護教諭コースにおいては、2015年4月の開設から2年生の後期科目として「ボランティア実習」を養護又は教職に関する科目として位置づけた。授業目的として学校における教育活動の体験であり、とりわけ特別支援教育を体験することにより教員としての資質向上を図ることである。

実習校として大府市内の小学校7校に依頼、白紙の状態から授業内容を立ち上げることができたのは全て大府市及び大府市教育委員会との地域連携の基盤によると受け止めている。2016年度は7名の学生が各学校の特別支援学級にボランティアとして指導補助を体験し、多くの学びを得ることができると確信している。そのため、7月には2回の事前指導も実施したところである。

(3)教職インターンシップ・学校ボランティア等

人間環境学部人間環境学科においては、2007年度に近隣の中学校と「学校インターンシップ」の協定を締結した。大学生にとって、高等学校、中学校および小学校等における就業体験となるこの制度は受け入れ校にとっても学校現場を活性化する取り組みとなっている。この制度は教育実習以外のプログラムとして単位認定とは別に奨励しており、教職を目指す学生が担任教員の補助として学校教育に関わり、文化祭、耐寒駆け足、マラソン大会、道徳・総合的な学習研修などの学校行事にも参加している。

年度	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
学校インターンシップ	8	7	7	4	7	4	8	3	4